
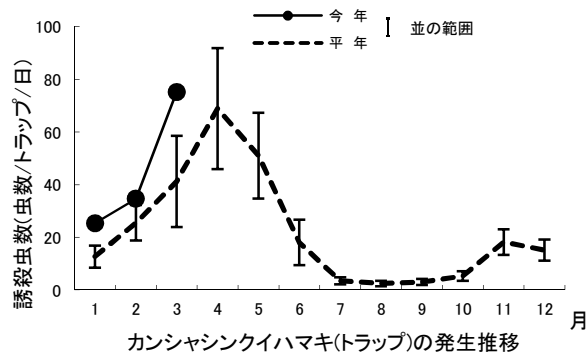
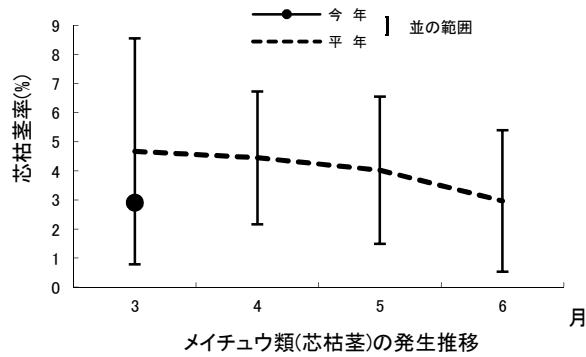


作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
3月の発生量 (現況)	並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	誘殺虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		


発生量の根拠 (調査結果)



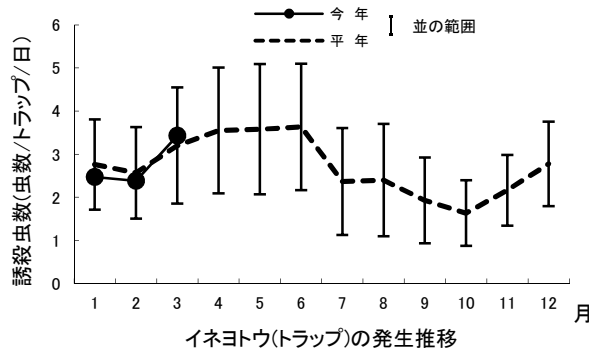
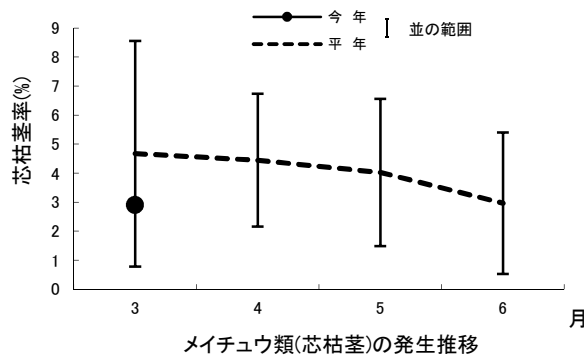
- ・ 芯枯茎切開調査の結果、確認された幼虫のうち全てが本種であった。

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。


作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	② メイチュウ類 (イネヨトウ)		
3月の発生量 (現況)	並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	誘殺虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠 (調査結果)

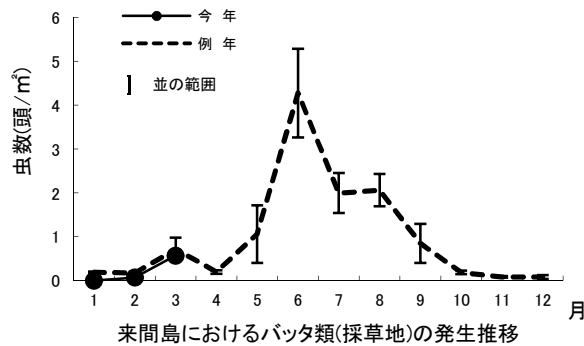
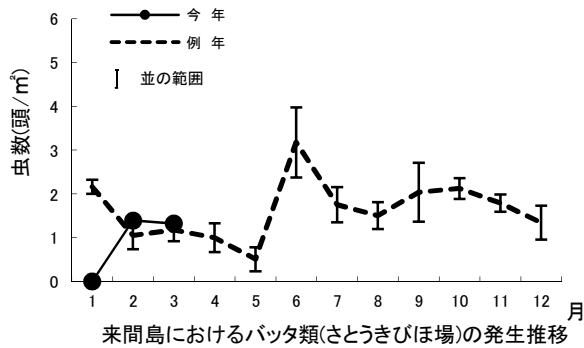


防除のポイント

- ・卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時、培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。


作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	バッタ類		
3月の発生量（現況）		判定不可	
4月の増減傾向		↗	
増減傾向の根拠		幼虫の発生時期であることから、3月より発生量は増加すると考えられる。	

発生量の根拠（調査結果）

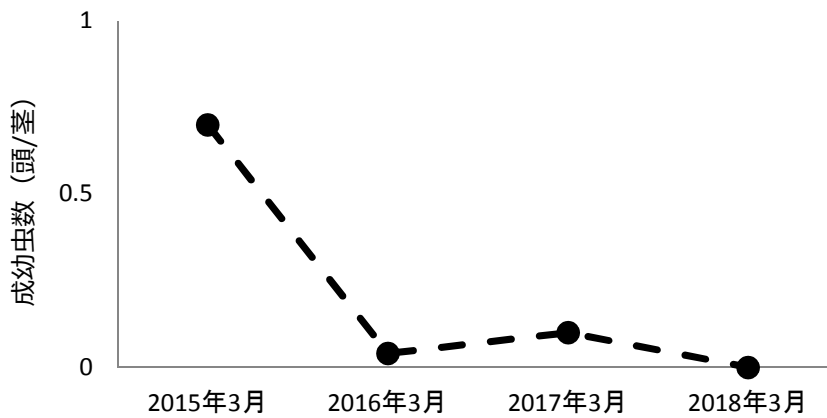


防除のポイント

- ・ 発生源となるほ場及び周辺の除草を徹底する。
- ・ 幼虫期の防除が効果的なので、4～6月にほ場周辺の見回りを行い幼虫の早期発見、早期防除に努める。

作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	カンシャコバネナガカメムシ		
3月の発生量（現況）	(発生なし)並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	冬期に産み付けられた卵がふ化する時期であるため、3月より発生量は増加すると考えられる。		


発生量の根拠（調査結果）



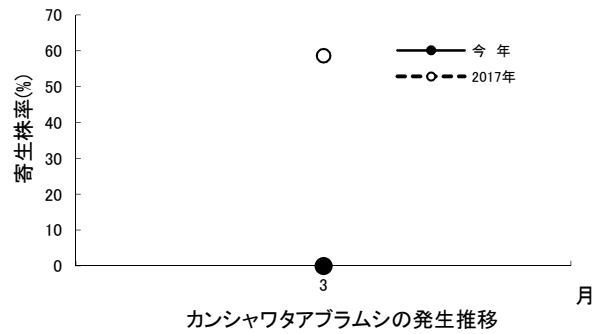
カンシャコバネナガカメムシの3月の年間発生推移

防除のポイント

- ・ 薬剤による防除は、防除適期（4月～5月上旬）に茎当たり虫数が20頭を超えているほ場は直ちに行う。
- ・ 1回目の株出、及び前年夏植で被害を受けやすいため、特に注意する。
- ・ 収穫後は直ちに畝間耕耘をし適切なほ場管理をする。

作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	カンシャワタアブラムシ		
3月の発生量（現況）	(発生なし)判定不可		
4月の増減傾向			
増減傾向の根拠	データの蓄積不足のため、判定保留。		

発生量の根拠（調査結果）



防除のポイント

- ・ 大発生すると吸汁害およびすす病により、さとうきびの生育が遅延するため、早期防除が重要である
- ・ 薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。
- ・ 収穫予定のさとうきびほ場や近隣作物へ薬剤がドリフト(飛散)しないように注意すること。
- ・ 捕食性天敵のマエウスジロマダラメイガの密度が高い場合は、捕食による密度低下が期待できる。
- ・ 多発生時は有翅虫が絶えず移動分散するため、一斉防除を行うことが望ましい。